

地域交流科目 履修案内 2016

「修了証」取得者からのメッセージ



村本真菜
Mana MURAMOTO

教育人間科学部 マルチメディア文化課程 卒業
現在、名古屋鉄道株式会社

地域交流科目を受講する事で、まちづくりやNPOで活躍している外部の方と交流し、実践的な考えを知る機会を得ることが出来ました。講義で学んだ事を生かし、私は3年間、和田町商店街で賑わいづくりの活動に取り組みました。商店街や地域の住民の方々と共に和田町を盛り上げていく中で、人と人の繋がりの大切さを再確認し、身近な地域に対し自分がどのように関わっていくべきかを考える事が出来るようになりました。

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： ワークショップ「多角的共生をめざして」
建築の環境と防災、共生支援論A
地域課題実習： 公共空間の活用とにぎわいづくりPJ



足立喜一郎
Kiichirou ADACHI

経済学部 国際経済学科 卒業
現在、横浜市役所

神奈川の自然はどうなっているのか。環境政策は何が行われているのか。地域を限定した身近なテーマ設定により、普通の授業では得られない臨場感を味わいました。実際に行ってみないと分からないことばかりで、新しいことを学ぶたびに人のつながりが増え、広い視野を持つことができました。地球規模の環境や経済も、地域で人が影響しあうことから始まると身をもって感じました。これからも「グローバル」を心がけようと思います。

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： 地方財政
地域課題実習： 地域から水と大気を考えるエコプロジェクト



市木晶子
Akiko ICHIKI

経営学部 会計・情報学科 卒業
現在、ソニー株式会社

私は「エコの芽を育てるプロジェクト」に参画しました。1年目は上級生と私の4名でしたが、2年目は同年度の学生が加わり8名になりました。地域課題実習では学内から外に出て、地域の方に厳しくも温かいご指導を頂く機会もあります。自ら課題を設定し、積極的に動くことを通じて、沢山のものを得ることができます。年度末には成果発表の機会があるので、自分のしたことをしっかりとプレゼンテーションできる能力を高めて下さい。

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： 建築の環境と防災、環境をめぐる諸問題、企業環境システム論
地域課題実習： エコの芽を育てるプロジェクト



猪原 真理子
Mariko INOHARA

工学部 社会空間システム学専攻 建築学コース
現在、東京都庁

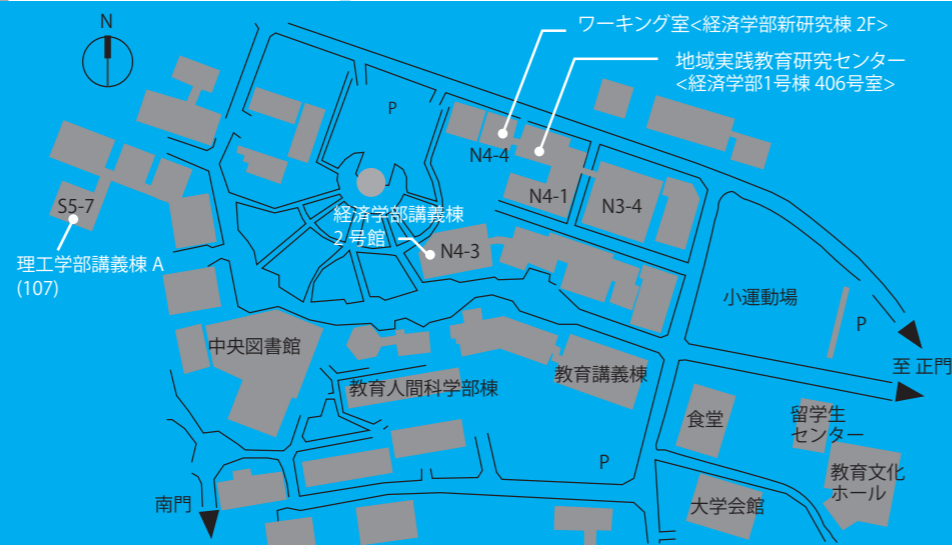
私は地域課題実習を機に、4年間和田町地域の活性化活動に取り組み、人と人の信頼関係の大切さを実感しました。これまでの自らの提案は、他の学生だけでなく、住民・行政・NPO等の方々の協力のもとで実現されてきました。その裏には、地域のまちづくり会議や行事への参加など、現地での人とのコミュニケーションの積み重ねがあります。今後はその行動力を活かし、さらに広いフィールドでの課題解決に取り組んでいきたいです。

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： 都市と都市計画、居住空間の計画
屋外気候と建築環境、都市と自然環境
地域課題実習： 公共空間の活用とにぎわいづくりPJ、和田べんプロジェクト

● 修了証を取得した人はセンターのHPで紹介・掲載することを予定しています。

● YOKOHAMA

オリエンテーション
4/13 (水) - 4/15 (金) 昼休み
中央図書館メディアホール



グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム

■ 問合せ・連絡先
地域実践教育研究センター
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3
横浜国立大学 経済学部1号館 406号室
TEL&FAX: 045-339-3579
E-mail: chiki-ct@ynu.ac.jp
URL: http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp

『地域交流科目』の概要

グローバル化が進むなかで、実際の経済活動の場である都市・地域のそれぞれが活力を維持し、そこに生活する市民の生活の質をいかに高めていくかが21世紀初頭の大きな課題になっています。

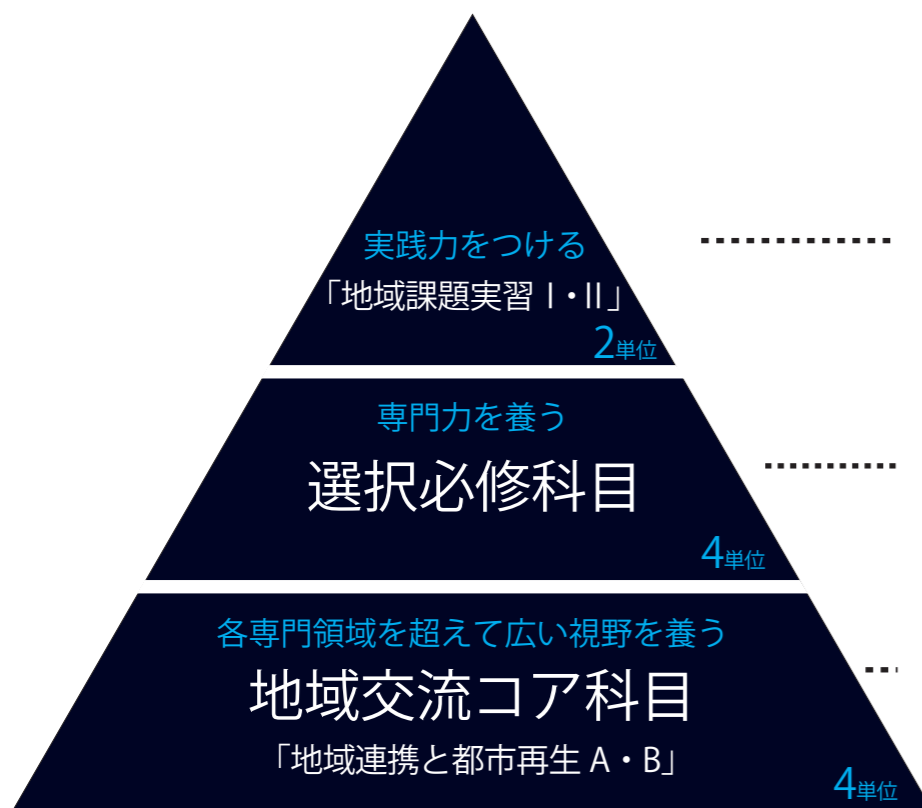
このような現代的課題とニーズに対応するため、本学では「教育学」「経済学」「経営学」「理工学」が連携して各学部領域を横断して学ぶ副専攻プログラム『地域交流科目』を設置し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる先端かつ複合的な実践能力を身につけるプログラムを運営しています。

『地域交流科目』は、①「地域連携と都市再生」4単位、②「選択必修科目」4単位、③「地域課題実習」2単位から成る科目で構成されています。この科目の受講・参画により所定の10単位を修得すると、副専攻プログラムの修了証を取得できます。

*副専攻プログラムとは・・・知識基盤社会が求める総合性・学際性への対応、また学生からのニーズへの対応として自らの所属する専攻(課程・学科)以外の分野を系統的に学習するプログラムです。

グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム

「修了証」の取得



地域課題実習Ⅰ・Ⅱには、横浜・神奈川地域を主なエリアとして活動を行う先端かつ複合的なプロジェクト(p.3-5)が立ち上げられており、各自の努力に比例して実践力をつけることができます。プロジェクトは当シラバスに記載されている「課外実習プロジェクト」と、学生自らがプロジェクトを立上げる「学生公募型プロジェクト」の2つのカテゴリがあります。地域課題実習はⅠ(春学期)とⅡ(秋学期)に分けて開講していますが、1年を通して履修登録することが原則です。単位取得は、参画状況やレポート等の提出物、プロジェクト全体報告への参画状況を見て評価します。

選択必修科目は、都市、地域で実践的に活動するにあたって必要な専門力を養うための科目です。教養教育科目・各学部専門科目のうち本プログラムに関連する全科目(p.6参照)を選択必修科目と位置づけ、全学の学生に開放した科目として開講しています。

地域連携と都市再生A・Bは、「地域課題実習」の基礎となるコア科目です。専門家、自治体、企業、NPOなどがゲストスピーカーとして実務経験に即した授業を行い、各専門領域を超えて横浜・神奈川について学ぶことができます。A(秋学期)とB(春学期)に分けて開講します。

履修・申請の流れ



「オリエンテーション」 4月13日(水)～15日(金) 昼休み

場所:中央図書館メディアホール

- ・地域課題実習の中から履修・参画をしたいプロジェクトを申請する
- ・学生公募型プロジェクトを立上げる人はメンバーを集めて申請する

■ 申請はオリエンテーション期間 or 4月15日 までにセンターに提出

地域交流科目の説明・相談と、地域課題実習の各プロジェクトの紹介を行います。履修する予定の人、関心・質問がある人は参加してください。地域課題実習を履修する人、参画する人は希望プロジェクトを応募用紙(様式1)に記し申請してください。(応募用紙はオリエンテーションにて用意しています。HPに掲載されている応募用紙をダウンロードして提出しても良い。)

昨年度から継続している地域課題実習の各プロジェクトについては、HPにて活動内容がわかります。

<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>



「履修登録」

春学期: 4/4(月)～4/15(金)

秋学期: 10/3(月)～10/14(金)

- ・「地域連携と都市再生A・B」(教養教育科目)
- ・選択必修科目(教養教育科目・学部専門科目)
- ・「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ」(教養教育科目)

履修申請は、p.6の地域交流科目一覧を参考にしながら登録しましょう。

地域課題実習は春学期「地域課題実習Ⅰ」、秋学期「地域課題実習Ⅱ」毎に履修登録する必要があります。秋学期に履修登録を忘れる人が多いので気をつけましょう。

「地域交流科目」

- ・「地域連携と都市再生A・B」
- ・選択必修科目
- ・「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ」

10単位

『地域交流科目』は4年間をかけて履修し、修了証を取得することが可能です。各科目をいずれから履修しても良いですが、教養教育科目の「地域連携と都市再生A・B」を1～2年生のうちに履修するとスムーズです。



「修了証」

※切: 4/15、11/25、3/3

地域交流人材育成教育プログラムの修了認定

修了証取得者からのメッセージ → 表紙裏面

修了認定の要件は以下の通りです。

- | | |
|---------------------------------|---------|
| ① 地域交流コア科目(必修) | 4単位取得 |
| ② 選択必修科目 | 4単位以上取得 |
| ③ 地域課題実習(必修) | 2単位取得 |
| ④ 上記①～③の申請に基づくGPA ^{※1} | 3.0以上 |

修了すると修了証の授与とともに、修了記録として成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム(地域実践)修了」と記載されます。また、センターのHPにて修了者の紹介が掲載される予定です。就職や進学の際、各自の実践的な取り組みを端的にアピールするものとして効果が期待できます。修了証は自己申請により発行されるものであり、下記3点の提出が必要です。

- 1: 地域交流科目 修了認定申請書 → センターのHPに掲載
- 2: 成績証明書
- 3: レポート等

提出は随時受け付けていますが、4/15、11/25、3/3毎に※切り、5月、12月、3月に発行されます。

申請者の学部学年は問わず、大学院生も申請可能^{※2}です。

※1 GPA(成績評価)にあたっては、入学年度に応じた算定を行います。

※2 地域交流人材育成教育プログラムの修了認定に際して「選択必修科目」は他大学で修得した科目による認定もできる場合がありますので、個別に相談下さい。

コア科目「地域連携と都市再生A・B」

コア科目A 地域連携と都市再生A 春学期・月5限

担当教員：内海宏(横浜プランナーズネットワーク)
志村真紀(地域実践教育研究センター)

【授業のねらい・目的】
21世紀初頭の我が国の大きな課題となっている地域活性化や都市再生を、地域のさまざまな主体が連携・協働することを通して実現するにはどうしたらよいかについて、特に横浜のさまざまな地域を具体的にとりあげ、まちづくりの最前線で活躍する専門家から学ぶとともに、自ら授業に参画し、学問分野を超えた基礎的素養を身につける。

【履修目標・達成目標】
●現代の地域がかかえる課題の実態とその背景を、横浜を通して理解することができる。●地域課題を解決するための主要な主体の役割と相互の連携について理解することができる。●具体的課題を地域の中から発見し分析し解決していくプロセスを現地踏査による評価やレポート作成により経験することができる。

【講義スケジュール】
1.イントロダクション～横浜における地域連携と都市再生
2.世界の中の横浜、日本の中の横浜
3.横浜という都市を通して日本の近代化を語る
4.フィールド(1) 郊外地域の現状と課題
5.フィールド(2) 中間地域の現状と課題
6.フィールド(3) 都心地域の現状と課題
7.今日の横浜の都市課題～人口減少社会に向けて
8.参加型授業(1) 横浜の都市課題について考える
9.参加型授業(2) 横浜の都市課題について発表する
10.地域まちづくりに向けた主体とその連携
11.地域再生モデル(1) 産業と地域まちづくり
12.地域再生モデル(2) クリエイティブシティと地域まちづくり
13.地域再生モデル(3) 都市農地再生と地域まちづくり
14.地域再生モデル(4) 子どもとまちづくり
15.まとめ
*講義スケジュールはゲストの都合によって順番が変更する場合があります。

コア科目B 地域連携と都市再生B 秋学期・月2限

担当教員：高井正(帝京大学 経済学部)、
伊集 守直(経済学部)、志村真紀(地域実践教育研究センター)

【授業のねらい・目的】
大都市・地方都市を含む都市再生のあり方について、「地域経済のなかの都市」、「行財政システムに枠づけられた都市」という視点から考える。その際、都市・街を取り巻く環境との関係を重視し、広域的視点から検討していく。事例研究を中心に、自治体・企業・NPO・専門家などを講師として招くとともに、市民の聴講も呼びかけ、講義自体を通じて地域交流を推進する。

【履修目標・達成目標】
1. 神奈川の地域の実例を踏まえ、地域が抱える課題と周辺環境との関係を理解する。
2. 地域課題を解決するための主要な主体(自治体・企業・NPO・専門家など)の役割と相互の連携について理解する。
3. これにより、学生が分析力、企画力、調整力等、実社会で必要とされる実務上のスキルを習得することを目標とする。

【授業の方法】
本授業は講義形式で行ない、①基礎学習、②地域の現状・課題、③地域連携の事例、④社会経済的視点を踏まえたまとめ、という順序で進める。講師の調整を含む講義全体のアレンジをコーディネーターである高井が行う。①②③については、自治体、企業、NPO、専門家などを講師として招聘し、地域の現状・課題及び地域連携の事例の紹介を行う。④については、行財政の視点から研究者による学術的な視点を提供し、講義全体を通じた「地域連携と都市再生」の方向性について考察する。

【講義スケジュール】
1回 : ①オリエンテーション : 高井
2～5回 : 基礎学習(②神奈川の姿、③地方自治、④NPO、⑤地方行財政制度) : 神奈川県
6～14回 : 地域の現状・課題Ⅰ～Ⅲ(⑥、⑨、⑫) : 神奈川県
地域連携の事例Ⅰ～Ⅲ(⑦、⑩、⑬) : NPO・企業
社会経済的視点Ⅰ～Ⅲ(⑧、⑪、⑭) : 横国大教員
15回 : ⑮総括と期末試験対策 : 高井
16回 : ⑯期末試験

1-4 セルフリノベでシェアハウス
—欲しいすまいを自分でつくる—

担当教員：○江口亨(都市イノベーション研究院)
連絡先：teguchi@ynu.ac.jp/内線：4064

【概要・目的・活動の流れ】
大学に近くて、安い部屋に住みたい!DIYで自分好みの部屋を手に入れたい!そんなあなた、一緒にシェアハウスをデザインしませんか?このPJは、大学近隣の空き家をシェアハウスに改修することを想定し、履修学生が自らのすまいをデザインするという実践的な演習である。そして建物所有者の了解を得られた場合、その提案に基づき空き家の改修を実施する。

【年間スケジュール】
4月～7月: シェアハウスに関する情報収集、見学などの勉強会
10月～12月: シェアハウスの設計
1月～3月: 内装改修工事(実現すれば)

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
すまいに関するリテラシーの向上。すなわち、参考モデルの情報収集、すまいをデザインする想像力、予算や住み手の要望などの相反する要因を総合的にまとめる構想力、また、これらを説明するプレゼンテーション技術。

【活動・ミーティングの頻度】
年間平均で月に2～3回。なお、10-12月は計画をまとめるため、前半より負荷が上がる。授業で計画したシェアハウスに住める方、2017年3月までに引越予定の方を希望します。

1-5 地域起業型インターンシップ
—マーケット事業のトライアル—

担当教員：○江口亨(都市イノベーション研究院)
連絡先：teguchi@ynu.ac.jp/内線：4064

【概要・目的・活動の流れ】
これは、まちづくりのノウハウを学ぶ実践的なPJである。履修学生は主体的に事業を企画し、大学近辺にてマーケットを開催する。これを通じて、現実の経済活動における経営感覚を養うことが目的である。具体的には、開催地の交渉に始まり、参加者の募集、広報活動、当日の集客などの事前準備を含め、学生が主体となり自らリスクを負いつつ事業を展開する。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
建築物も都市もすべて経済活動で生み出される財によって開発、維持されていく。このPJを通じて、世の中の経済活動の基礎を自らが経験することで、建築や都市と向き合う際の理解を深める効果を期待できる。

【活動・ミーティングの頻度】
4月～7月は1～2回/月。8月前半が9月後半に集中的に作業。

【備考】
8月前半が9月後半に行う集中的な作業に参加できる学生を希望します
【活動掲載サイト】
昨年度に和町商店街で実施したクラフトマーケットの様子
https://www.facebook.com/craft.workshop2015/

1-6 ほどがや「みちまち」プロジェクト

担当教員：○野原卓、藤原徹平(都市イノベ)
連絡先：noharat@ynu.ac.jp/内線 4065

【概要・目的・活動の流れ】
本学の位置する保土ヶ谷区には、旧東海道保土ヶ谷宿をはじめとした豊かな地域資源や可能性がありつつ、これらが顕在化されていないため、みちとその周辺の資源のあり方をキッカケに、地域まちづくりのありかた、みちとまちのデザイン、回遊性の構築、地域コミュニティ拠点形成など、「みちのまちづくり」について、地域の関係主体(行政・地域住民・地域団体)とともに考える。本年度は、屋台(ほどわごん)を核とした場づくりとマネジメント、みちの「拠点」に関する企画提案などを中心に活動を進めてゆく

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
本実習は、地域課題や隠された魅力を発見し、深い地域理解と愛着醸成を獲得し、実践的活動の中で自主的な企画力・運営力・思考力を養う。また、保土ヶ谷区・地域団体と協働して実践的な活動力を身につける。

【活動・ミーティングの頻度】
春・秋学期: 週一回程度の会議・不定期の活動、夏季等: 実験・実地調査等、その他不定期な地域活動。

【備考】
保土ヶ谷に興味を持ち、年間を通じて、積極的に地域課題に関する活動に参画する意思があること。

「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ」

カテゴリ① 課外実習プロジェクト

1-1 かながわ里山探検隊

担当教員：○小池治(国際社会科学研究院)
連絡先：okoike@ynu.ac.jp/内線 3642

【概要・目的・活動の流れ】
神奈川県内の里地里山をフィールドに地域活性化の課題をさぐるプロジェクトです。現地調査では、県内各地で里地里山の保全に取り組んでいる団体のイベントに参加したり、農業体験等を行います。

【年間スケジュール】
4～8月 里山探検Part1(草刈り、田植え、草取りなど)
10月～1月 里山探検Part 2(稲刈り、収穫体験、収穫祭など)
2月 成果報告会

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
里地里山の保全に取り組んでいる団体や行政の担当職員、他大学の学生との交流を通じて地域づくりの課題や方法を学びます。フィールド調査を踏まえて持続可能な地域づくりのアイデアを考えてください。

【活動・ミーティングの頻度】
ミーティングは隔週。フィールドワークは週末を中心に月に2回程度の実施を予定。

【備考】
農業や環境保全に関心がある人、年間を通じて活動に参加できる人を募集します。

【活動掲載サイト】
http://ynusatoyama.wpblog.jp/

1-2 モビリティ・デザインの実践

担当教員：○中村文彦、三浦詩乃(都市イノベーション研究院)
連絡先：f-naka@ynu.ac.jp/内線 4033

【概要・目的・活動の流れ】
1)概要
交通問題を抱える神奈川県内フィールドやアジア都市を対象に、人々の移動をより望ましい方向に導く都市交通デザインの提案を行う。受講生は行政、まちづくり組織、公共交通事業者等に協力指導を仰ぎながら地域への知見を深め、具体的な成果を導く。
2)目的
実践的教育を通じ、交通プランナーの視点を備えた地域への提案ができる人材を育てる。
3)活動の流れ
原則、前後期共通のテーマ設定を行い、提案内容を発展させる。①公共交通(バス等)、②街路デザイン、③本学COIプロジェクトを具体的なテーマとし、6～7の学生グループで活動する。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
都市計画、土木計画の実務では空間的・経済的制約がある中、事業を完遂させねばならない。当演習により、今ある資源を最大限活用しつつ、まちづくりの観点から望ましい交通体系を提案する能力を習得してもらう。

【活動・ミーティングの頻度】
原則、指導陣と受講生がディスカッション及び作業する時間を1限/週確保している。

【活動掲載サイト】
現在リニューアル中、2016年度本演習関連ページ開設予定*暫定HP(交通と都市研究室HP):
http://www.cvg.ynu.ac.jp/G4/

1-3 横浜市と市民生活白書をつくらう2016

担当教員：○居城琢、岡部純一、氏川恵次、
相馬直子、池島祥文(国社)
連絡先：ishiro-taku@ynu.ac.jp/内線 3567

【概要・目的・活動の流れ】
本プロジェクトは生活上で生じるさまざまな問題点を対象に、横浜市をフィールドとして、学生自身が調査に取り組み、住みよい地域をつくるための素材を発掘することを目的とします。その成果を蓄積していく中で、横浜市が編集・発行している『横浜市市民生活白書』に対して、学生の視点からの提言を行い、実際の政策運営に貢献していきます。地域で実際に起きている諸問題に対して、現場の視察・ヒアリングを通じて、自分の目と耳で確かめて、その解決策を導く糸口を見つけられることを期待します。

【年間スケジュール】
4月～5月 課題の設定にむけた検討会
6月～8月 活動
10月 中間報告会/11月～1月 活動
2月 最終報告会
3月 成果報告書の作成

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
実際に地域の現場に飛び込むことができる学生を求めます。ただし、5人以上の参加がない場合には、グループでの活動が難しくなるため、個別研究になる場合があります。参加希望者は事前に教員と相談することをお勧めします。

【活動・ミーティングの頻度】
基本的には、学生自身による自主的なプロジェクト活動になりますが、横浜市職員の方々の支援を受けながら、調査を進めていくことができます。みずから課題の設定、調査、成果報告に向けた準備・活動を進める能力が養われます。

1-7 おおたクリエイティブタウン研究PJ
—モノづくりのまちづくりを考える—

担当教員：○野原卓(都市イノベーション研究院)
連絡先：noharat@ynu.ac.jp/内線 4065

【概要・目的・活動の流れ】
日本の産業を支えてきた中小工場の集積する京浜臨海部(大田・川崎・横浜)では、産業構造の変革に伴い、新たなモノづくりとまちづくりの関係を築く必要のある時代が到来している。東京都大田区では、新たな方向性として「大田クリエイティブタウン」創出に向けて動きだしている。本年度は、大田区矢口地区のモノづくり活動拠点「くりらぼ多摩川」を中心に、モノづくりのまちづくりを考える上での地域リサーチ、活動の企画運営、情報発信で新しいモノづくりのまちを考える(首都大学東京・大田観光協会との協働)。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
本実習では、地域の横断的課題(モノづくりのまちづくり)に対して、より深い地域理解と課題解決に向けての実践力を養う。また、他大学・地域団体等と協働して、実践的な活動を興す力を身につけることができる。

【活動・ミーティングの頻度】
月一回程度の拠点活用企画参加、週一回の会合、その他不定期なイベント・取材等。

【備考】
参加条件: 地域課題に責任をもって取り組み、会合や実践に積極的に参加する意思があること。

1-8 「サイコウ郊外」プロジェクト
—郊外住宅地のまちづくりリ・デザイナー—

担当教員：○野原卓(都市イノベーション研究院)
連絡先：noharat@ynu.ac.jp/内線 4065

【概要・目的・活動の流れ】
縮減時代の日本の郊外住宅地には、次世代に向けて新しい空間・環境・コミュニティが求められつつある。高度経済成長期に形成された横浜市の郊外住宅地の将来について、暮らし方(生活)・活かし方(活動)・つくり方(空間)について再考/再興(サイコウ)する。横浜市旭区の地域拠点(みなまきラボ)や若葉台団地を舞台に、民間企業・地域団体・他大学・専門家と協働して、現場での活動にも参加しながら、郊外住宅の再編、空き家再生、ライフスタイル再編、将来像について研究する。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
地域の社会問題について深く関心をもち、自分でその課題について深く考え、地域の声に耳を傾け、深く見つめ、その成果をもって、自分なりの解答(ソリューション)を表現できる力を身につける。

【活動・ミーティングの頻度】
週一回程度の会議および拠点活動、月一回程度の企画運営、その他不定期な活動・イベント等の実施支援。

【備考】
自分の意思と責任で、積極的に活動や研究に参画する強い意思のある人。

1-9 移民・難民コミュニティと日本社会
—支援団体を支援する—

担当教員：○佐藤峰(教育人間科学部)、小林晋明(国社)
連絡先：sato-mine@ynu.ac.jp/内線：3430

【概要・目的・活動の流れ】
神奈川県は全国でも外国人居住数も多く、インドシナ難民の定住センターがあった関係で、現在も「いちょう団地」を中心に全国有数の難民・移民の背景を持つ方々が居住します。本PJでは、移民・難民コミュニティへの支援を行う団体について全体像を理解するとともに、支援団体の活動(実態調査や生活支援など)を支援することを通じ、「多文化共生社会」の実現に寄与していくことを目標とします。支援団体を招いたオリエンテーションの後、チームで支援プロジェクトを計画・実施、報告を行います。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
1. 移民・難民の状況を把握、課題の実態・背景を理解する。
2. 支援団体活動を理解・支援することで社会課題の解決に寄与する。
3. 学際・学年を超えた横断的なチーム構成を推奨し、コミュニケーション力を醸成する。

【活動・ミーティングの頻度】
活動・ミーティングの頻度は活動次第です。期末に各チームで最終報告会を行います。

【備考】
平日夕方や週末などに活動がある場合も想定されるので応じられることが望ましいです。

1-10
かながわ ニューツーリズム

担当教員：○氏川恵次（国際社会科学研究院）
連絡先：ujikawa@ynu.ac.jp / 内線 3538

【概要・目的・活動の流れ】
神奈川県では、湘南・鎌倉・箱根といった、豊かな自然に恵まれ、多様な文化を有する地域での、観光等を通じた新しいライフスタイルが注目されています。

本PJでは、小田原市や周辺の箱根等を基点に、産業観光、エコ・グリーンツーリズム、歴史的な文化や最近のサブカルチャーにもふれる文化観光、といったフィールドワークを予定しています。

「グローカル」な視点から、日本・世界の人々が神奈川県・日本にどのような魅力を感じるか、いかに世界に発信していくかについても、市民、企業、行政の方々と考えていきます。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
各種の観光（ジオツーリズム、観光マーケティング、インバウンド戦略等）、まちづくりの構造改革等にかんする基礎的な知識。コミュニティのモチベーション向上を通じた、新たな着地型観光のプラットフォーム形成能力。

【活動・ミーティングの頻度】
概ね、1か月に数回、テキスト講読、ミーティング、フィールドワークを行います。
https://www.facebook.com/craft.workshop2015/

1-11
ローカルなマテリアルのデザイン

担当教員：○志村真紀（地域実践センター）
連絡先：maki-s@ynu.ac.jp / 内線 3579

【概要・目的・活動の流れ】
私たちが住む地域周辺や、国内における各地の活性化を促すために、本プロジェクトではローカルな各種マテリアルに目を向け、地産地消する流れをつくりだし、ローカルなマテリアルによって維持できる空間・環境・風景について考えながら身近でできる実践的な活動を行います。

昨年度は「食材」を対象として近隣農家と学内レストランとの連携関係をつくり、メニューへの反映や野菜の販売を行いました。今年度はその「食材」による活動も継続しながら、県内で育成された「木材」を使った家具づくりをしながら、「カフェ的空間」の創出と実践を行います。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
・食材を通じた地産地消や農業に関する基礎知識。
・「食品衛生責任者」の資格を取得することによって、飲食業や喫茶を営むための資格がとれます（1日で取れます）。
・家具をつくりますので、デザイン・DIY・空間デザインの技術や能力がつかえます。
・情報発信のためのデザイン技術や能力。
・上記の知識・技術・能力は様々な可能性を将来的にも応用でき、特に地域においてはコミュニティカフェ、空家活用、公共空間における賑わいの創出、あるいは地域産品の開発にもつながります。

【活動・ミーティングの頻度】
週に1（～2）回程度のミーティングや実践活動。各専門の勉強会も学内教員と連携して行います。

1-12
市民活動を体験して考える協働型まちづくりプロジェクト

担当教員：○志村真紀(地域セ)・高見沢実(都市イ)
連絡先：maki-s@ynu.ac.jp / 内線 3579

【概要・目的・活動の流れ】
横浜市には、環境保全、地域福祉、子育て・子ども青少年支援、国際協力、IT・アートによるまちづくり等をテーマとした活動をしているNPOが多くあり、その数は日本一と言われています。

このプロジェクトでは、そのような横浜市内のNPOに、夏休み期間中に10日間以上の活動体験（インターン）へ行くことを行っています。

NPOによる市民活動の実態や課題を現場で体感する活動を軸に、協働型まちづくりについて体験して考え、自らが主体的に学ぶ活動です。

5～7月 市民活動団体とのマッチング・研修
8～9月 市民活動団体での個々の活動体験(全10日間程度・団体により変動)
11～1月 NPOインターンを踏まえた実践的活動
1月各自レポートまとめ・提出

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
各地区でまちづくりをすすめているNPO等を通じて、実際のまちづくりの場で課題を学ぶことができます。

【活動・ミーティングの頻度】
春学期・秋学期は月に1～2回の学内ミーティングと、3～4回の学外ミーティング。夏休み中は10日間ほどのインターンを行います。

1-13
みなとまちプロジェクト

担当教員：○志村真紀（地域実践センター）
連絡先：maki-s@ynu.ac.jp / 内線 3579

【概要・目的・活動の流れ】
日本は島国であり、海に面して多くの地域が発展してきました。そのような中で、横浜も独自の歴史と文化の発展を踏まえながら、みなとまちとして栄えてきました。

そこで本プロジェクトでは、横浜国立大学がある横浜市をはじめ、国内の各みなとまちとの交流を深めながら、各みなとまちの課題解決や魅力向上に向けて活動していきます。

具体的には、まちづくり・デザイン・観光・二拠点居住等に関わる活動など、各地域のニーズと参画する学生からの提案をベースに、具体的な活動を開拓していきます。釧路・清水・尾道などのみなとまちに興味がある人、行きたい人、住んでみたい人などは、ぜひ。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
・各みなとまちの歴史・産業・空間的特徴に関する知識の修得。
・各みなとまちでのコミュニケーション能力・提案能力・交渉能力・フットワークの向上。

【活動・ミーティングの頻度】
週に1回、ミーティングや活動を行います。土・日あるいは夏休みなどに、釧路・清水・尾道等のみなとまちへ行くことも計画します。

【備考】
本学が推進する「みなとまちネットワーク」の形成に向けて、本学に関わる教員や各みなとまちで活動する人々をつなぐプラットフォームとして本プロジェクトを位置づけます。

1-14
ほどがや・よこはま デジタルマッププロジェクト

担当教員：○佐土原聡、吉田聡、稲垣景子(都市イ)
連絡先：sadohara@ynu.ac.jp / 内線 4247

【概要・目的・活動の流れ】
空間認識は人が生きていく上で最も基本的な能力である。GIS(地理情報システム)は、コンピュータで地図を描き、その属性情報も格納できる空間情報技術である。それをフルに活用することで、地域の複雑な事象を重ね合わせ、情報処理して正確に把握し、直感的に理解することができる。地域課題を見える化し、人々がいっしょに課題解決にあたるための協働支援ツールとなる。

本実習では、保土ヶ谷区や横浜市と連携し、GISを活用して地域課題に関わる様々な地図を作成して、政策担当者との意見交換なども行いながら、地域課題への理解を深め、その分析や解決策の検討を行う。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
客観的なデータに基づいて地域課題をとらえ、解決策を考えていく面白さを、保土ヶ谷区や横浜をフィールドとして実践的に体験することができる。また、そのための不可欠な情報技術であるGISを習得することができる。この体験と習得技術は、今後、さまざまな分野で活かすことができる。

【活動・ミーティングの頻度】
4月～7月：テーマの設定と基礎調査、GISの習得（1～2週間に1回）
10月～1月：現地調査等、マップづくり（1～2週間に1回）

1-15
現代世界の課題の探索と協力の実践 -ネパール支援プロジェクト-

担当教員：○小林誉明（国際社会科学研究院）
連絡先：t-kobayashi@ynu.ac.jp / 内線 3611

【概要・目的・活動の流れ】
世界は紛争、災害、格差など深刻な「課題」に満ちている。そこから遠く離れた場所において外部者として世界の課題を論じることは可能だが、その渦中に身をおかなければ見えてこないことは多い。本実習は、解決すべき課題を抱えている（と思われる）地域に「押しかけ」、自らの目で現実を見て、感じた問題意識に基づいて「自分は何ができるのか」を模索し、関係者に働きかけながら「実践してみる」ことを目的とする。本年は、2015年4月に大規模な震災に見舞われたネパールをフィールドとした協力を実践する。

【当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力】
現実課題を乗り越えるべく、企画を考え、リソースを集めて、自ら「プロジェクト」を形成し、運営していく貴重な経験を得られるであろう。

【活動・ミーティングの頻度】
ミーティング毎週
フィールド実践・夏休みおよび春休み（それぞれ10日間ずつ）

【情報掲載サイト】
http://www.i-c-lab.com/

『地域交流科目』一覧

	学部	科目名	担当	対象学年	開講期	単位
コア科目	教養教育科目	地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)	内海・志村	1～4年	春	2
		地域連携と都市再生B(かながわ地域学)	高井・池島・志村	1～4年	秋	2
選択必修科目	教養教育科目	建築の環境と防災	河端 昌也	1～4年	秋	2
		ベンチャーから学ぶマネジメント	井上 他	1～4年	秋	2
		環境をめぐる諸問題	酒井 他	1～4年	秋	2
		現代の物流経営	松井 美樹	1～4年	秋	2
		健康スポーツ演習B	高橋和子	1～4年	春・秋集中	2
		健康スポーツ演習B(木・3限)	梅澤秋久	1～4年	春・秋集中	2
		学外活動・学外学習 I	小池(研)	1～4年	春・秋	2
		環境と人間	田中(英)	3～4年	春不定期	2
	教育人間科学部	共生社会論ID	安藤	2～4年	秋	2
		ノンバーバルコミュニケーション	高橋和子	1～4年	春集中	2
		グローバルゼーションと地域社会Ⅱ	佐藤(峰)	2～4年	秋	2
		共生社会論ⅡB(国際社会学)	佐藤(峰)	3～4年	春	2
		ワークショップ・多元的共生をめざして	H23年度まで開講	—	—	(2)
		ワークショップ・携帯電話と環境問題	H25年度まで開講	—	—	(2)
		共生支援論A	H26年度まで開講	—	—	(2)
世代の多元性	H27年度まで開講	—	—	(2)		
現代社会の読み方A	H27年度まで開講	—	—	(2)		
経済学部	地方財政	伊集	2～4年	H28年度休講	4	
	地域経済政策	居城	2～4年	通年開講	4	
	国際環境経済論	氏川	2～4年	H28年度休講	4	
	現代社会福祉	相馬	2～4年	春	4	
	比較農業政策	池島	2～4年	H28年度休講	4	
	地域イノベーション政策	遠藤	2～4年	秋	2	
経営学部	産業分析(※公的規制論から変更)	貴志	3～4年	H28年度休講	2	
	企業と社会	H27年度まで開講	—	—	(2)	
	生産システム論	松井	3～4年	秋	2	
理工学部	生態会計論Ⅰ	八木	2～4年	春	2	
	地域・都市計画	中村(文)	2～4年	秋	2	
	居住空間の計画	藤岡	2～4年	春	2	
	屋外気候と建築環境	田中(稲)	2～4年	春	2	
地域課題実習	教養教育科目	都市と都市計画	高見沢	2～4年	秋	2
		建築・地域環境計画Ⅰ	佐土原	2～4年	秋	2
地域課題実習	教養教育科目	地域課題実習Ⅰ	志村	1～4年	春集中	1
		地域課題実習Ⅱ	志村	1～4年	秋集中	1

- 「地域連携と都市再生A・B」や選択必修科目の授業内容は、教養教育科目および各専門科目のシラバスをご覧ください。
- 本プログラムの「地域連携と都市再生」「選択必修科目」「地域課題実習」はいずれも教養教育科目・専門科目の一部であり、各々は学部の単位としても認められるものです。

カテゴリ②
学生公募型プロジェクト

地域と連携した実践的な取り組みを横浜国立大学内の学生から広く公募します。学生公募型プロジェクトを立ち上げる学生は、事前にセンターへ連絡することによって、オリエンテーションの際にプロジェクトの紹介を行うこともできます。応募に関する詳細、条件、および申請書はセンターのHPに掲載。

■提出締切日：2016年4月15日（金）17時まで
■提出：地域実践教育研究センター 経済学部1号館（N4-1棟）406室